

作品「スイス便り」¹⁾制作考

石 野 眞*

Makoto ISHINO

An Analysis and Study of My work "A Letter from Switzerland"

昭和51年度文部省在外研究員として一年間、スイスにおいて研究生活を持つことが出来た。²⁾ 国立ペスタロッヂ教育研究所における10ヶ月の研究は、美術教育とデザインの研究、特にスイス国民教育の父、ペスタロッヂの教育原理と美術教育について考察した。ペスタロッヂは自らの教育実践を通してカリキュラムの近代化をなし遂げる中で、初めて子どもの教育に図画をとり入れており、当時としては画期的なことであった。³⁾

チューリヒの国立ペスタロッヂ教育研究所ではH、ビーマン所長、ミス女史に指導頂いたが、当時研究所内に子どもの美術教室を開いておられた、R・ブリガッティ教授には多くの指導と助言を頂いた。

筆者の制作はこうしたスイスでの研究生活とブリガッティ教授との交流がテーマとなって、作品スイスシリーズ⁴⁾として展開し来ている。度々頂くブリガッティ教授のスイスからの手紙は、筆者に限り無い発想と制作意欲を与えてくれる。

デザイン＝Designはその語源の示すとおり「しるしを用いて、人間の考えや計画を表す＝Designare (L)」ことである。

人類社会の多様な生活と活動の中に、フランス生まれのアメリカのデザイナーL・ローウィの指摘したように「口紅から機関車まで」、社会のあらゆる場においてデザインにかかわらない物は何一つ無いほど、今日、デザインの多様な世界が広がっている。

デザインは人類社会の多様な生活と活動の中であってその生活や活動の目的や用途にそって制作される。いかなれば、そうした生活や活動にかかわる要請が無い限り行われない活動とも言える。しかしまたデザインがこうした要請に答えて制作されてゆく限りデザイナーにとっ

ては多様なデザインの広がりofの全てに対応してゆけるような多彩な能力が必要とされている。

デザインはビジュアルデザイン、グラフィックデザインの分野においてもその用途、目的に応じて表現されねばならないので、多様なデザインの表現世界とその目的のためにデザイナーは、知性と感性の調和の上に協調性を持って企画・制作を推進しなくてはならない。

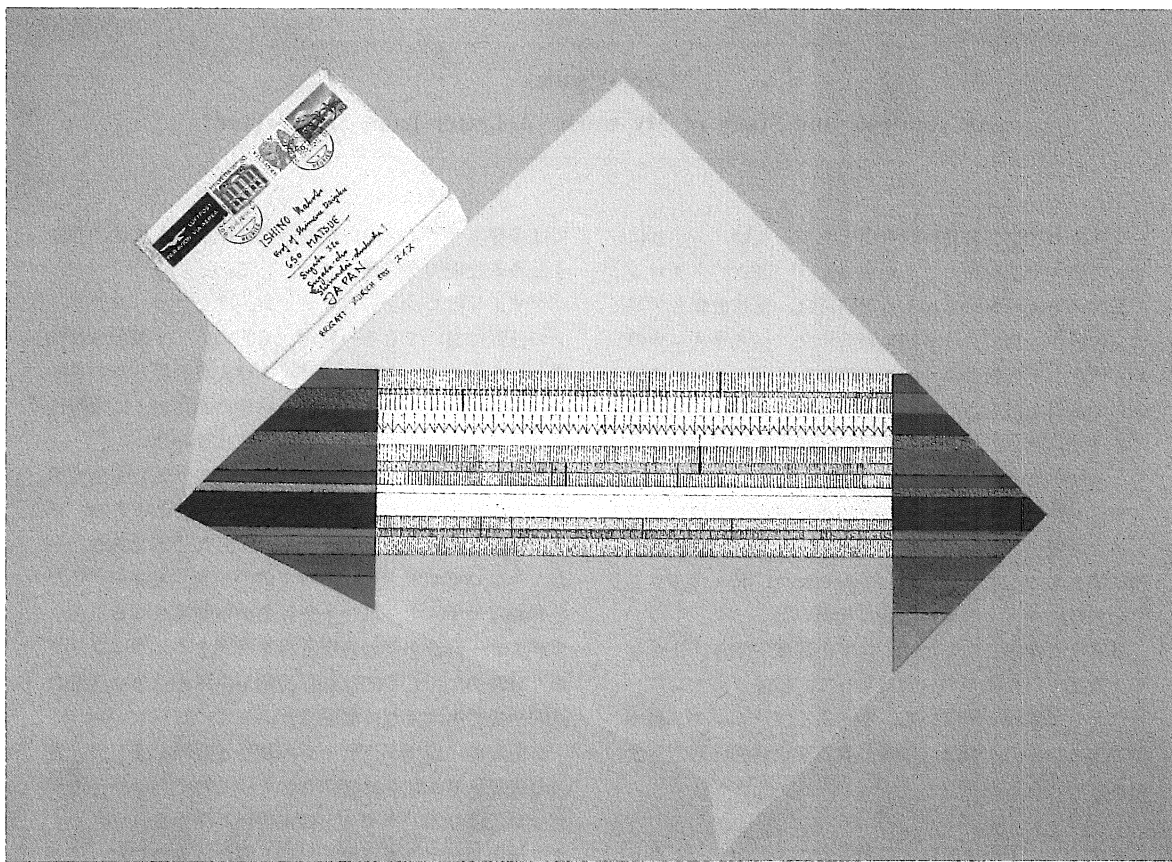
デザインの制作を考える時、一つはこうした生活や活動にかかわる用途や目的の要請に答えることにあり、デザインの活動のほとんどはこのような仕事である。一方、今日のデザイン界にあって田中一光、永井一正氏など有能なデザイナーは企業や社会から要請される以前にデザイナー自身が個の表現世界を展開するようになっており日常的に、自主的な制作活動が生活や仕事や活動の目的や用途をはなれて展開されるようになった。

自由な個の表現がデザインの制作と展開を通して、自己の表現世界が社会に提示されてゆくので、受け身のデザインではなく、デザインの主体性が確立されてゆく。また自由な自己の表現世界を探る制作活動の中に、デザイナーの内省的な感性の陶冶が期待され、新しいデザイン活動の在り方として方向づけられている。

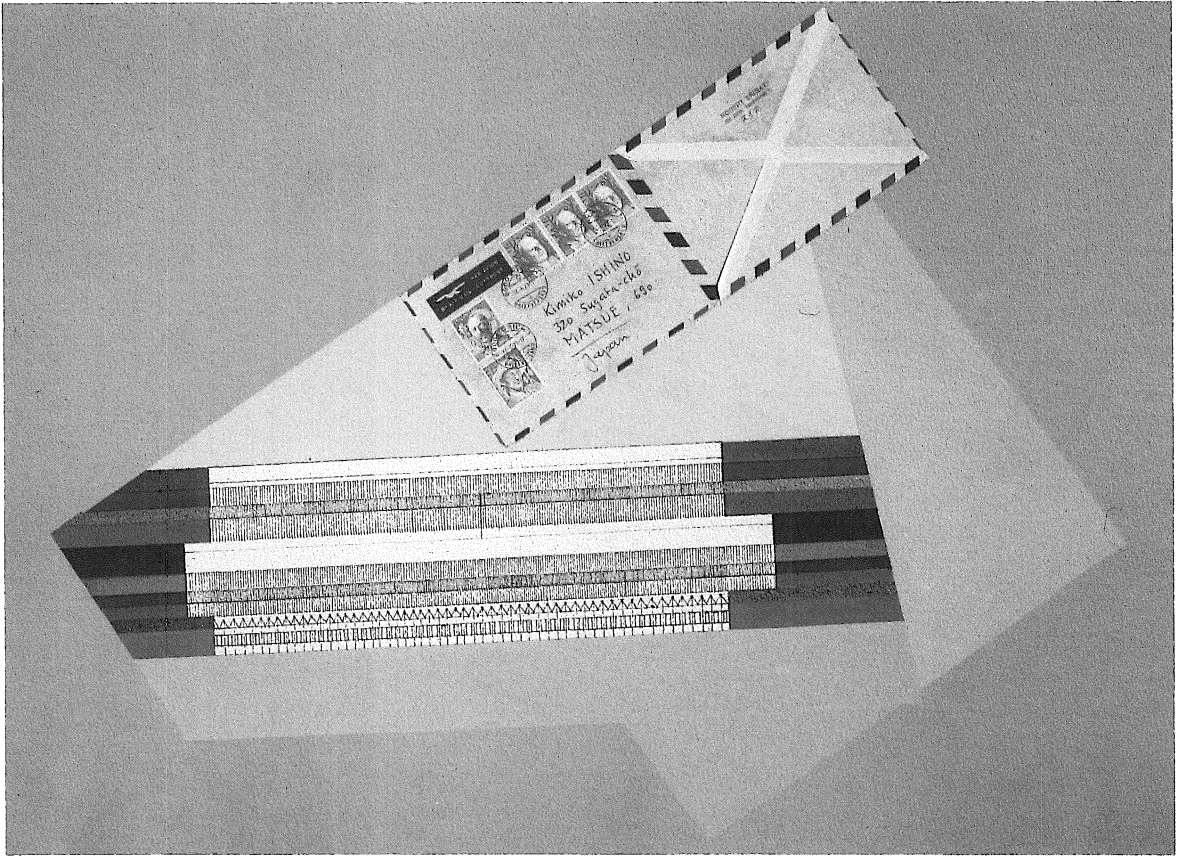
「何を語るべきか—デザイナーにとってこの古く根本的な命題は、新しくは、デザインに何が出来るかの明確を経て、経済主導の社会において、その文化価値をいかに確立するか、いかに承認させるかに向かわざるをえない。瀬木慎一⁵⁾」

現代と未来を指向する社会の要請をデザインの制作のなかに十分に受け止め、個の表現と制作をとおして自らの感性の陶冶に励みながら、デザインの制作と研究を続けて行きたい。

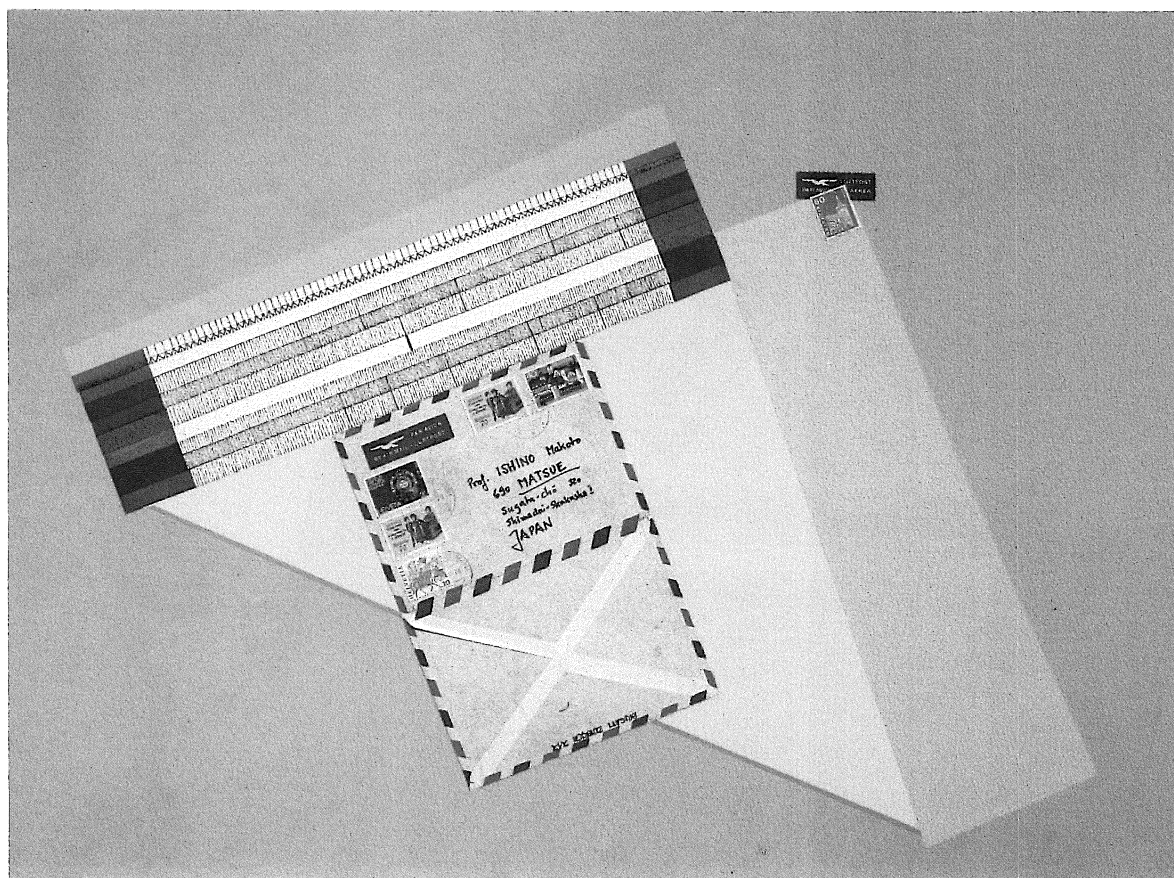
* 島根大学教育学部 美術研究室



「スイス便り 1」



「スイス便り 2」



「スイス便り 3」

註

- 1) 作品「スイス便り」1～3
アクリル、デザインガッシュ、ポスターカラー、水彩、鉛筆、コンテ、イラストマーカー、ビッグペン
アルシュ水彩紙
第43回現展／昭和62年6月12日～22日
東京・上野・東京都美術館
第40回現展画集／75頁、「スイス便り2」
- 2) 昭和51年度文部省在外研究員として渡欧。
昭和51年10月3日～昭和52年10月2日迄スイス国立
ペスタロッツ教育研究所、スイス国立ベルン美術館
客員教授。フランス、ドイツ、イタリアなどヨーロ
ッパ各地の美術館において、美術・デザイン、美術
教育の研究に従事。
- 3) 拙論「ペスタロッツの教育原理と美術教育」、大学
美術教育学会誌第12巻、1頁～8頁、1979年
- 4) 第40回現展・造形詩「スイス便り」昭和59年
第40回現展画集／91頁
第41回現展・「スイス便り」昭和60年
第41回現展画集／110頁
第42回現展・造形詩「スイス」昭和61年
第42回現展画集／87頁
カバーデザイン・島大通信10／April 1987
現展選抜100人展／造形詩「スイス」出品。
昭和61年9月、東京セントラル美術館。
現展＝現代美術家協会展。昭和36年、第17回展（東
京都美術館）へ初出品、38年、第19回展において会
友賞受賞、準会員推挙。41年会員推挙を受け現在に
至る。現代美術家協会デザイン部会員
- 5) 「アイデア」創刊200号記念、1987・1、147頁、誠文
堂新光社

制作控

- 昭和61年9月、松江東地区ソフトボール連盟辻謙次代表
の委嘱により連盟シンボルマークをデザイン。
昭和62年6月、中国卓球選手権大会松江大会・織奥信男
協会理事長の委嘱により大会シンボルマークをデザ
イン
昭和60年4月、T S K・山陰中央テレビ放送社章を田部
長右衛門智久社長と審査制定(デザイン／勝部忠正)
昭和61年9月、F M山陰社章を坂口幸雄社長と審査制定
(デザイン／勝部忠正)
昭和62年4月、島根大学田中隆二教授の委嘱により松江
市、日仏文化セミナーポスターをデザイン
昭和62年8月、島根デザイン協会展（県立博物館）へ会
員として出品
昭和62年11月、島根県展デザイン部門（県民会館）へ招
待出品

参考文献

- 筑波大学芸術年報・1986
拙論「デザインに関する試論」島根大学教育学部紀要、
第5巻、1971
拙著「デザイン・構成」第一法規、昭和57年
共著「美術・造形の基礎」大学美術・造形教育研究会編
産業図書、昭和62年。